

第70回

健康のススメ

板 東 浩

近頃、SOHOからHOHOに変わりつつあるのをご存じだろうか。SOHOとはsmall office、home officeで、HOHOはhis office、her officeのこと。欧米では以前から、会社に毎日出社せず自宅のオフィスで仕事を行う人も多い。インターネット(net)を用いれば、必要な情報を簡単にゲットできる。定年退職した夫婦が自宅でnetを使って働くのがHOHOであり、急増しているという。

このような環境が「ユビキタス(ubiquitous)」に発展していく。語源はラテン語で、いたるところに存在するという意味。つまり、情報ネットワークにいつでも、どこからでもアクセスできる。時間と空間を自由に行き来できることから、国立国語研究所は「時空自在」と訳した。

ユビキタス社会では、パソコンや携帯電話、冷蔵

庫、電子レンジ、自動車、自動販売機などもすべてnetで接続される。携帯電話や腕時計の感覚で身につけるウェアラブル・コンピュータも開発中。10本の指を空中で動かすと、空間でキーボード入力ができる時代も近い。これを日本語で表現すると「指来たす」となるのかも？

「夢来たる社会」

先日、ヨーロッパに出張したときにも、未来社会の到来を感じた。ホテルでは無線LANが全室に完備。わざわざ人が集まらなくても、会議は一緒にいるかのような仮想現実の映像で行われる。教育分野ではnetによるeラーニングが普及し、医学領域でも膨大なデータの検索が一瞬で可能だ。

こんな変革の波が日本に押し寄せている。「夢来たる」環境を目指し、デジタルワークの波に乗っていくことができるかな？ (医学博士、内科医師)